別紙

事業実施計画

株式会社ひろしまモビリティワールド

目次

基本計画　P1

事業理念…… P2
ブランドコンセプト…… P4
モビリティの定義…… P5
施設コンセプト…… P6
施設ゾーン構成…… P11
各ゾーン計画…… P12
にぎわい創出・周辺連携 …… P17
環境・景観への配慮 …… P18
事業リスク…… P19
事業実施体制…… P21
施設管理運用・事業計画 …… P22

※掲載しているビジュアルはすべてイメージとして制作したものであり、実際の施設・設備を表現したものではありません。

基本計画

株式会社ひろしまモビリティワールド

事業理念 ①

モビリティを手段からコミュニティへ。

ひろしまモビリティワールドは人と人をつなぐBASEとして進化し続けます。

HIROSHIMA MOBILITY WORLD

MISSION 存在意義

人・地域・技術・文化をつなぐBASEとして、モビリティとエンターテインメントで
広島から世界へ新しい交流を生み出す。
移動でつながる“点と点”を、遊び・学び・驚き・発見が融合した体験で結び、
世代や国境を超えて出会いと共創が生まれる場を提供する。

事業理念 ②

VISION 目指す姿

- 広島を起点に、モビリティとエンターテインメントを融合した常設型の交流拠点を発信する
- コンサート・フェス・地域イベントでにぎわいを創出するとともに、災害有事には対策本部・避難所として機能する
- 広島の大学・専門学校等と連携し、機械工学・建築・防災・観光・デザイン・データサイエンスなど多様な学びを提供する
- 瀬戸内海に面する立地を活かし、広島⇄日本各地・瀬戸内各地の観光・移動の結節点（ハブ）として機能する
- 多言語対応や国際イベントで海外観光客・留学生と市民が交流し、異文化や多様な価値観に触れながら学び合う場を提供する

VALUES 行動指針

1. つながる（Connect）

人・地域・技術・文化を結び、新しい価値を共に創る

2. 楽しむ（Entertain）

心を動かすエンターテインメントを提供する

3. 挑む（Challenge）

新しい表現や技術に果敢にチャレンジする

4. 開く（Open）

世代・国境・分野を超えて多様な交流を歓迎する

5. 続ける（Sustain）

地域と環境に配慮し、未来へ続く仕組みを築く

ロゴ・タイプデザイン



デザインコンセプト

連なる円のモチーフは、一つひとつがモビリティを象徴します。上下に組み合わされた構成は「M」と「W」を形づくり、モビリティワールドの頭文字を示しています。円がつながる姿は、人と地域を結び、技術と未来をつなぐとともに、人々が手を取り合う姿を思わせ、交流と可能性を広げます。そのつながりは一本の道となり、未来へ続く可能性を切り開きます。グレーは信頼と堅実さを、ブルーは革新と開放感を示し、広島から世界へ広がるモビリティの力を表現しています。



モビリティの定義



私たちが考えるモビリティとは?

私たちにとってモビリティとは、単なる移動の道具ではなく、移動を通じて人と人が出会い、地域がつながり、新しい体験や学びが生まれる力そのものを指します。そこには、自動車や鉄道、船や飛行機といった日常の交通から、車椅子や電動モビリティ、さらには未来の空飛ぶクルマやロボットまで、多様な形の移動が含まれます。重要なのは、どんな手段であれ、その移動が交流や発見、安心や楽しさをもたらし、社会や暮らしを豊かにしていくことです。モビリティワールドは、この「移動が育む価値」をモビリティの本質として捉えます。

広島を起点に広がるプロジェクトの役割



広島から始まり、広島と歩み、広島の未来へ

広島は今、新たな都市の姿へと大きく変わろうとしています。駅前再開発による都市機能の強化に加え、MAZDA Zoom-Zoomスタジアム広島やエディオンピースウイング広島が新たな賑わいを生み出しています。そこに加わるのが「ひろしまモビリティワールド」です。ヘリポート・港湾・高速道路網に隣接する立地を活かし、モビリティを切り口に新たなコミュニティを生み出す拠点として、スポーツや観光の賑わいと融合しながら広島の新たな魅力を形づくります。

ひろしまモビリティワールドは、広島のまちづくりと共鳴しながら、広島をさらに魅力ある“目的地”へと高める一助となることを目指します。

広島を“飛ばさない”大型拠点

音楽フェスやスポーツイベント、展示会、地域マルシェなどを天候に左右されず開催できる環境を整えることで、「広島飛ばし」の回避にもつながります。

この拠点は、イベント誘致だけでなく、「広島に行く理由」を生み出す存在です。文化やエンターテインメントが集まる新たな拠点として、広島をより魅力ある“目的地”へと高めていきます。

移動ハブとしての機能

瀬戸内エリアの観光・移動ハブとしての機能を目指す

瀬戸内海に面する立地と、広島へリポート・港湾施設・主要高速道路網への高いアクセス性を活かし、広島と日本各地・瀬戸内各地を結ぶ観光・移動の結節点として機能します。観光バス・レンタカー・電動モビリティ・船舶などを組み合わせたシームレスな移動ネットワークを構築することで、観光客の回遊性と滞在時間を高め、地域経済の活性化につなげます。将来的にはAIによる観光ルート提案や多言語案内を導入し、「移動そのものを楽しめる」観光体験を創出します。

車でのアクセス

広島市中心部（紙屋町・八丁堀）	約20分
広島駅	約30分
西広島駅	約15分
広島港	約15~20分
広島空港	約55~60分
吉島IC	約15分
観音出入口	直近

空港からのアクセス

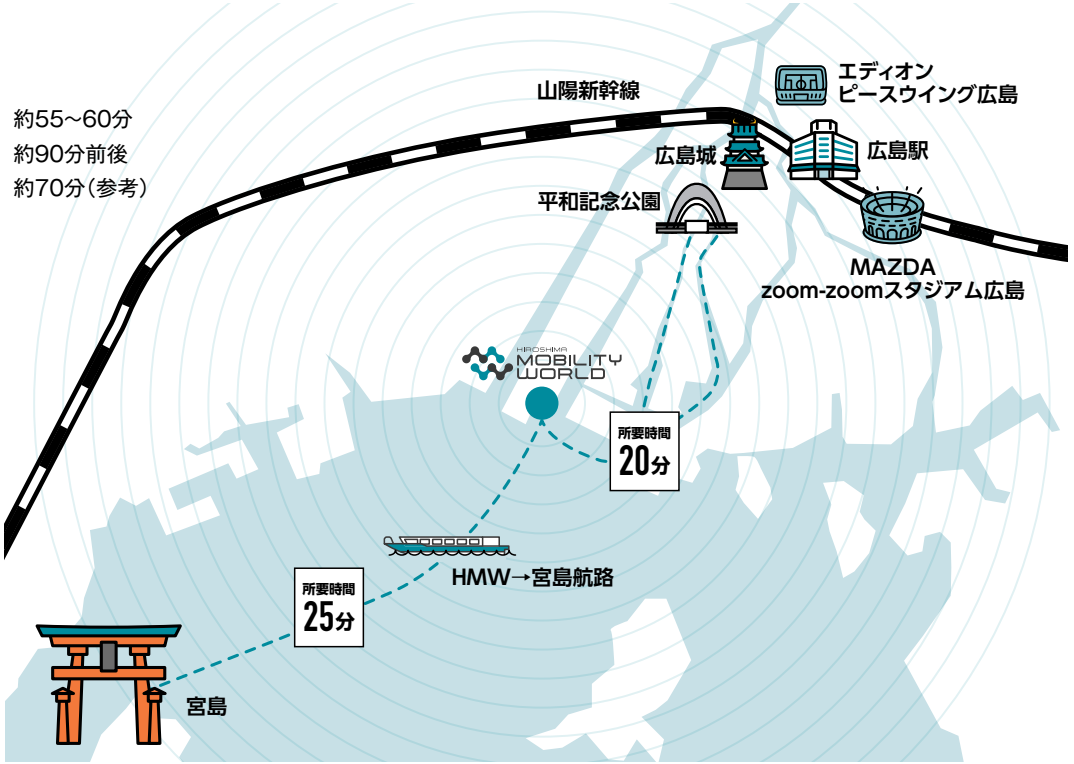
広島空港 → 車	約55~60分
広島空港 → 公共交通（リムジンバス+広電バス）	約90分前後
岩国錦帯橋空港 → 車	約70分（参考）

公共交通機関でのアクセス

広島駅 → 広電バス3号線（観音マリーナホップ行き）	約30~40分
横川駅 → 広電バス8号線（観音方面行き）	約20~30分
新井口駅 → 広島バス50号線経由	約20分
西広島駅 → 路面電車+バス乗り継ぎ	約50分前後

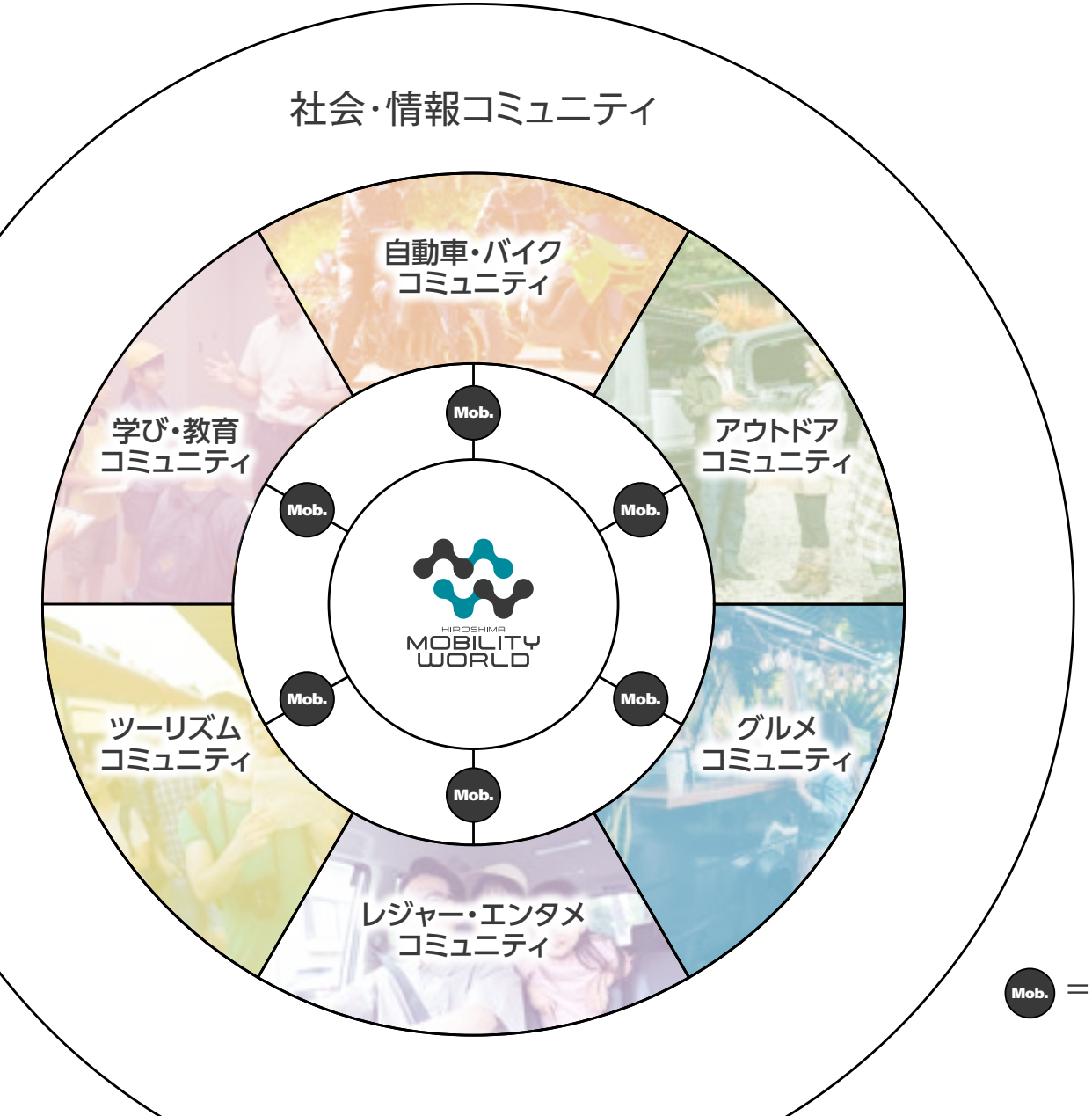
船舶アクセス

広島港 → 車　　約15~20分
瀬戸内海の島々から広島港経由 → バスまたは車でアクセス



現在、HMW→宮島経由の船舶定期便就航等による
周辺観光ゾーンと拠点間移動ハブ機能の整備を関係者と協議中。

HMWによる既存コミュニティの接続



Mob. ＝モビリティ

あらゆるコミュニティを
モビリティで繋ぐ
コミュニティプラットフォーム
の実現を目指す。

現代社会では、SNSを通じて多様なコミュニティが生まれ、交流はオンラインからリアルへと広がっています。
そこには必然的に移動が伴い、モビリティはあらゆる行動に不可欠な要素です。ジャンルや関心分野を問わず、モビリティは人の活動と密接に関わっています。ひろしまモビリティワールドは、この構造を強みに、モビリティで多様な人々をつなぎ、交流と地域活性化を同時に実現します。

HIROSHIMA MOBILITY WORLD

HMWにおけるターゲットの考え方

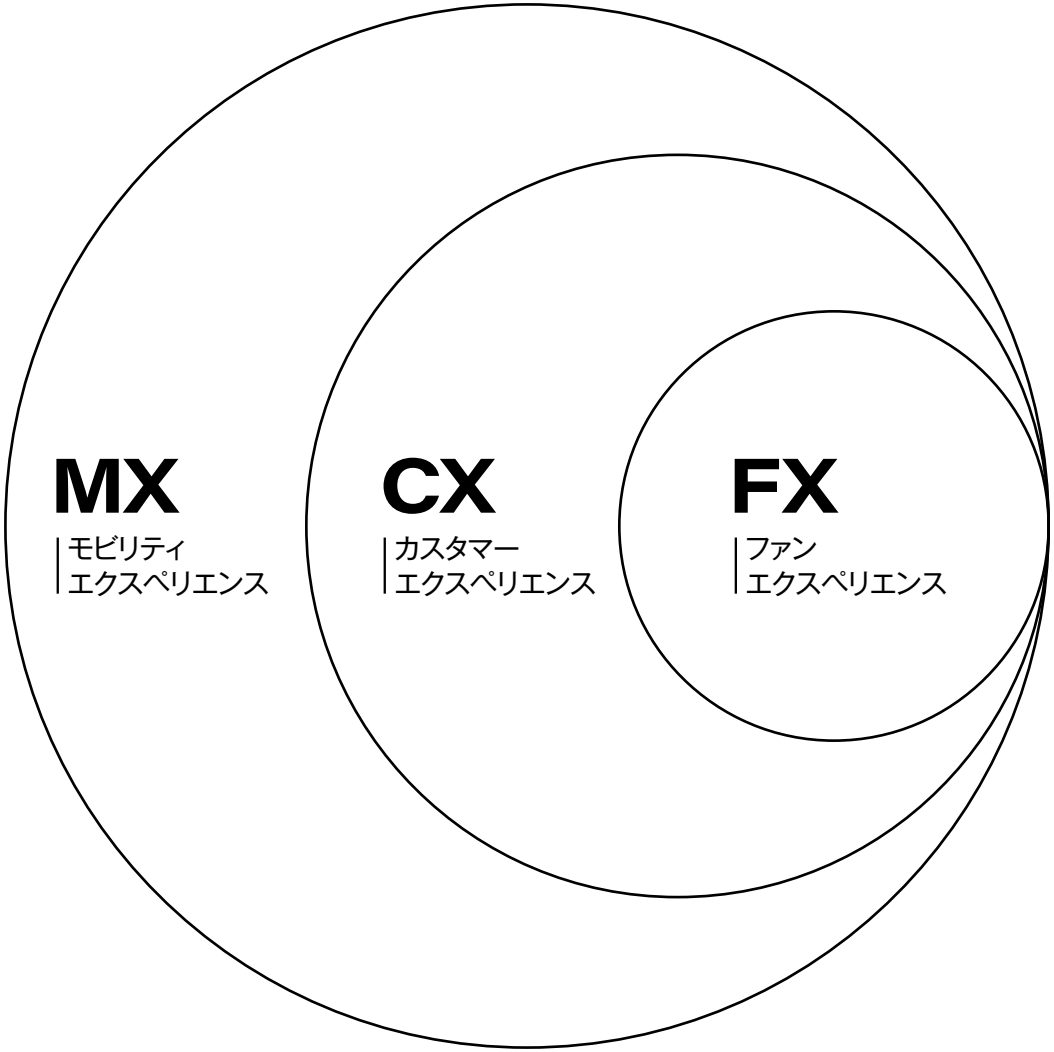
多様なエンターテインメントが体験価値を生み、その価値が関心層を広げていく。

モータースポーツが象徴するように、モビリティには人を熱狂させる力があります。しかし関心層はまだ少なく、多くの人には専門的なテーマとして映りがちです。一方で、移動は誰の日常にも存在し、「楽しさ」や「幸せ」といった体験価値はすべての人が求めています。モビリティをこうした価値と結びつけることで、関心の薄い人も自然と魅力に惹きつけられ、やがて熱狂を共有する存在へと変わっていきます。



モビリティは少数派の高関心層だけに閉じるテーマではなく、楽しさや幸せを媒介にして大多数に開けるテーマであると考えます。

モビリティ ＋ 体験価値 ＝ モビリティ・エクスペリエンス（MX）



FX | ファン エクスペリエンス

モビリティを深く愛するファンに向けて、特別な体験を届けます。イベントやコミュニティ活動、限定コンテンツや交流機会を通じて、ファン同士やブランドとの絆を強化し、熱量と共感を継続的に高めます。

CX | カスタマー エクスペリエンス

来場者がモビリティワールドと出会うすべての瞬間に、心地よさと驚きを感じられる体験を設計します。情報との出会いから現地での体験、そしてその後のつながりまで、一連の顧客体験を通じて「また訪れたい」と思える価値を創出します。

MX | モビリティ エクスペリエンス

モビリティワールド全体を包み込む「世界観の体験」です。ファン体験（FX）や顧客体験（CX）を結び合わせ、ひとつの世界観としてデザインします。来場者は足を踏み入れた瞬間からその世界に引き込まれ、移動・交流・発見が連なる体験として広がっていく。モビリティ・エクスペリエンスは、ここで過ごすすべての瞬間に息づいています。

HMWを構成する5つのゾーン

Zone:B | ドライブアベニュー

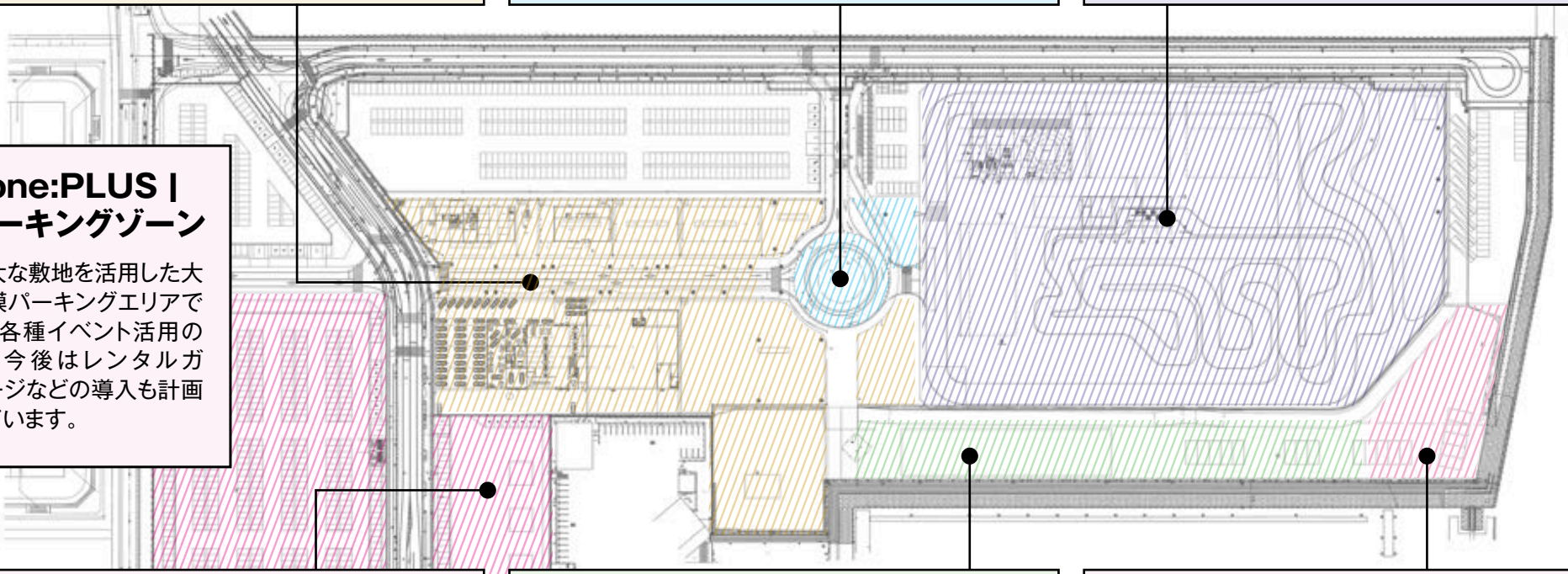
四輪・二輪の車両や関連パーツ、アクセサリーなどを取り扱うテナントエリアです。展示・販売・カスタム・メンテナンスまで、幅広いモビリティコンテンツが集まる空間として展開します。

Zone:D | ワールドハブ

象徴的ラウンドアバウトを中心に据えたシンボルエリアです。周辺の芝生エリアでは、各種イベントやプロモーションを開催し、多くの人が集まる交流空間として展開します。

Zone:A | グランドスクエア

EVカート場を中心に、屋外ステージやXR館などを備えたエンターテインメントエリアです。イベント開催やアクティビティを通じて、多様な楽しみ方が集まる施設の中心空間として展開します。



Zone:PLUS | パーキングゾーン

広大な敷地を活用した大規模パーキングエリアです。各種イベント活用の他、今後はレンタルガレージなどの導入も計画しています。

Zone:PLUS | モビリティケア

純水洗車やドライブスルー、予約制の手洗いブースなどを備えたモビリティケアエリアです。手軽な洗車からこだわりのケアまで、クルマを大切にする楽しさを提案する新しいモビリティ空間として展開します。

Zone:C | ロイヤルリゾート

温浴施設、レストラン、ホテルなどを備えた滞在型リゾートエリアです。上質なくつろぎと非日常を体感できる空間として、宿泊・温浴・リラクゼーションを楽しめる施設を展開します。

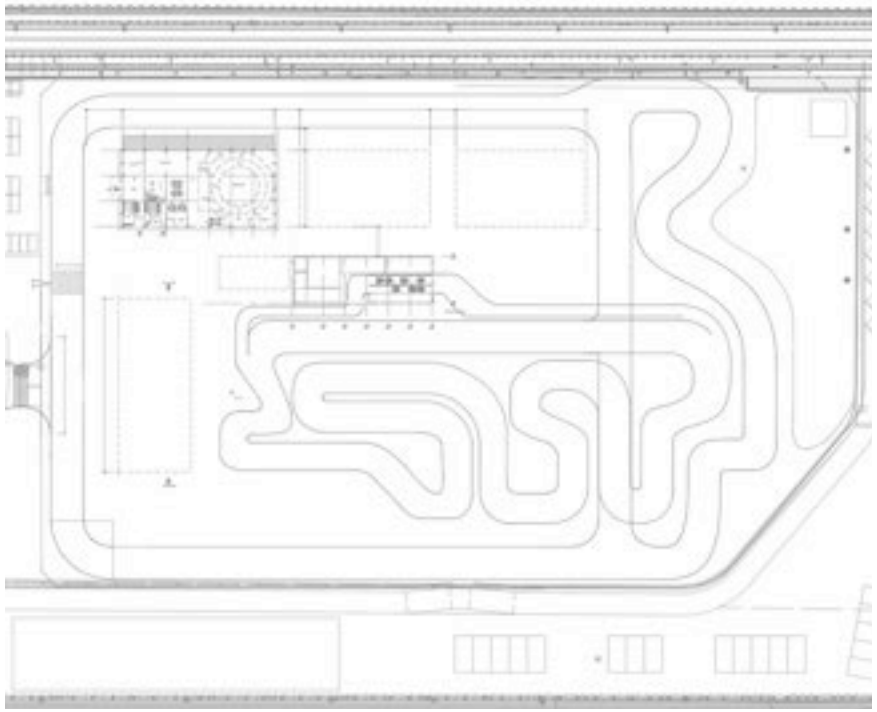
Zone:PLUS | 航空モビリティ

空飛ぶクルマやヘリコプターによる次世代の移動を実現するエリアです。離着陸施設などを整備し、瀬戸内の新たな空の移動文化を発信する拠点として展開します。

各ゾーンの展開イメージ　Zone:A | グランドスクエア

XRやEVカートなど、体験型モビリティエンターテインメントで熱狂を創造

広々とした空間で、体験型エンターテインメントを展開。EVカートなどのモビリティ体験を通じて、その魅力を実感できる場となります。さらに屋外ステージを併設し、各種イベントにも対応。ここでしか味わえない体験価値を創出し、訪れる人に特別な時間を届けます。



EVカート





XR体験コンテンツ





屋外ステージ



各ゾーンの展開イメージ　Zone:B | ドライブアベニュー

二輪・四輪を愛する人々が集い、交流を通じてつながりを広げるメインストリート

両側には最新の車両展示やカスタムパーツ、関連グッズを扱うショップが立ち並び、歩くだけでモビリティの多様な魅力に触れられるエリアです。試乗会やデモンストレーションにも活用され、新しい技術やライフスタイルを発信する拠点となります。ショップや展示施設を中心に、訪れる人が身近にモビリティの世界観を体感できる空間を展開します。

多様なショップが並ぶ商業エリア

国内外のモビリティブランドや専門ショップが集まる商業エリアです。車両・パーツ・アパレル・関連アイテムまで幅広く展開し、モビリティカルチャーをより身近に楽しめる空間を形成します。

ドライブアベニュー：メインストリート

施設の入口からワールドハブへと続くメインストリートは、移動だけでなく滞在や体験も楽しめる歩行者中心の空間です。各種イベントやイルミネーション演出によって昼夜で異なる賑わいを生み出します。

キッチンカー専用スペース

メインストリートには、電源・給排水を完備したキッチンカー専用スペースを整備。多彩なフードコンテンツが並び、イベント時だけでなく日常的にも賑わいを生み出すエリアとして展開します。

二輪・四輪ショップ





メインストリート





直営ショップ・コンビニ



キッチンカー



各ゾーンの展開イメージ　Zone:C | ロイヤルリゾート

海を望む上質な滞在空間で、癒しと非日常を体感できるリゾートエリア

宿泊・温浴施設を中心に構成された滞在型リゾートエリアです。海を望むロケーションを活かし、日常から離れてゆったりと過ごせる空間を形成。観光・レジャー・長期滞在など、多様な利用スタイルに対応し、訪れる人それぞれに特別な時間を提供します。

温浴・レストラン

サウナや温浴施設をはじめ、瀬戸内の食を楽しめるレストランを備え、景色とともに心身を整えられるリラクゼーション空間を展開します。昼は開放感ある海辺の景観、夜はライトアップされた落ち着いた雰囲気の中で、癒しとくつろぎを楽しめるエリアを形成。ひとりで過ごす時間はもちろん、家族や仲間とゆったり滞在できる空間を目指します。

ホテル

ツーリストから訪日観光客まで幅広く対応する宿泊エリアです。モビリティワールドならではのロケーションとコンセプトを活かし、宿泊自体が旅の目的となる滞在スタイルを展開します。単なる寝泊まりの場ではなく、訪れる人がモビリティワールドならではの体験や雰囲気を存分に味わい、旅の思い出を深める特別な空間を目指します。

温浴・レストラン







ホテル







各ゾーンの展開イメージ　Zone:D | ワールドハブ

施設の中心に位置するシンボルリング。各エリアをつなぎ、人々が行き交う結節点

施設全体の中心に位置するシンボルエリア。象徴的な8m球体LEDビジョンを核に、イベントスペースやバスステーション、ドッグランなど多様な機能を集約。各エリアをつなぐ結節点として、人々が集い、交流し、新たな体験が生まれる空間を形成します。

8m巨大球体LEDビジョン（将来構想）

将来的に直径8m・国内最大級の球体LEDビジョンの設置を計画しています。昼夜で異なる演出を行い、映像・ライトアップ・イベント演出を通じて、ワールドハブ全体のランドマークとなることを目指します。来場者の待ち合わせや交流の場としてだけでなく、重要な観光資源として多くの人を惹きつけるシンボル空間の形成を計画しています。

イベントスペース

芝生エリアを活用した多目的イベントスペースです。展示会やプロモーション、車両展示、マーケットイベントなど、多彩な催しに対応。海辺のロケーションを活かし、日常利用から大型イベントまで幅広く活用できる交流空間を展開します。

8m球体LEDビジョン





イベントスペース





バスステーション



各ゾーンの展開イメージ

Zone: PLUS

モビリティと暮らし・遊びが融合する、多彩な体験が集まる複合エリア

モビリティケアや次世代モビリティ、大規模パーキングなど、多彩な機能を集約した複合エリアです。クルマを利用する日常をより快適にするサービスから、新たな移動体験まで幅広く展開。日常利用から週末レジャーまで、多様な過ごし方に対応するエリアを形成します。

モビリティケア

純水洗車をはじめ、ドライブスルー洗車や予約制の手洗いブースなどを備えたモビリティケアエリアです。手軽でスピーディーな洗車から、設備を活用したこだわりのケアまで幅広いニーズに対応。クルマをきれいにするだけでなく、ケアする時間そのものを楽しめる新しいモビリティ空間を展開します。

パーキングエリア

広い敷地を活かした大規模パーキングエリアを整備し、多くの来場者が安心して利用できる十分な駐車スペースを確保します。施設利用の利便性を支えるとともに、イベント開催時など多様な利用にも対応します。

航空モビリティ

空飛ぶクルマやヘリコプターによる新たな移動サービスを提供し、観光地や主要拠点を効率的に結ぶ次世代モビリティを実現します。瀬戸内ならではの空からの景観も楽しめる、新しい移動体験を提供します。

モビリティケア





航空モビリティ





パーキングエリア



HIROSHIMA MOBILITY WORLD

にぎわい創出と周辺連携

常設の魅力を、非日常のにぎわいと地域連携で増幅する

常設コンテンツによる日常的な集客に加え、屋外・屋内の多彩なイベントで「訪れる理由」を継続的に生み出します。さらに周辺施設と相互に送客・連携することで、施設単体にとどまらない地域一体のにぎわいを形成し、エリア全体の回遊と滞在価値を高めていきます。

周辺連携 ｜ 当施設を結節点とした周辺施設との親和性

HIROSHIMA MOBILITY WORLD

広島観音マリーナ
海上モビリティ連携

観音マリーナ海浜公園
来訪者の立寄り

周辺企業・教育機関
懇親・行事利用

広島運輸支局
ナンバー・車検

スポーツ・レク施設
飲食・VR連携

にぎわい創出 ｜ 常設の合間に施設へ多様な賑わいを生む非常設イベント

音楽フェス・野外コンサート
都市立地を活かし貴重な会場として多数誘致

花火フェス
日本の花火文化を芸術として継承・発信

仮設プール・キッズイベント
ファミリー層向けの多様なキッズイベント

レースイベント
カートレースなど競技イベントの開催

モビリティイベント
レースの先鋭イメージを活用したイベント

eスポーツ大会
大型スクリーン・音響・光で大会を開催

フードフェス・定例イベント
夜市やキッチンカーなど屋外フードイベント

イルミネーションイベント
球体LEDを中心とし季節ごとに開催

ファッションイベント
巨大スクリーン・光・音楽で広島初の本格ショー

環境・景観への配慮

周辺環境との調和を重視した施設計画

本施設では、周辺環境との調和を図りながら、騒音・振動対策、省エネルギー化、緑化、ユニバーサルデザインなど、多面的な環境配慮に取り組み、持続可能で快適な施設づくりを推進します。

騒音・振動対策

- サイレンサーの導入による騒音低減
- EVモビリティ導入による静音化
- 時間帯に応じた周辺環境への配慮
- 定期的な騒音測定による運営管理

景観形成

- 低層建築による周辺景観との調和
- 周辺環境と調和した施設デザイン
- 瀬戸内海の景観を活かした施設配置
- 夜間景観に配慮した照明計画

環境負荷の軽減

- 外気冷房・省エネルギー設備の導入
- 空調設備の最適制御による省エネルギー化
- LED照明導入による消費電力の削減
- CO_2排出量の低減に配慮した施設運営

緑化への取り組み

- 地域景観と調和した植栽計画
- 木陰や休憩空間を活かした環境整備
- 緑化によるヒートアイランド対策

ユニバーサルデザイン

- 案内表示の多言語化による利便性向上
- バリアフリー動線を考慮した施設計画
- ピクトグラムによる視認性向上
- 誰もが利用しやすい施設環境の整備

クリーンエネルギー

- EVモビリティの積極的な導入
- 共創パートナーとの技術実証の推進
- エネルギー利用効率化による環境負荷低減

事業リスク対応 ①

1.共通リスク

外部環境リスク

リスク 感染症拡大

感染症の再拡大時、国・県の要請による施設閉鎖や営業時間短縮で来場者数が減少するおそれ。

対応策：

清掃・消毒を徹底。屋外施設の比率が高く感染リスクが低い点を訴求し、来場者数を維持。

リスク 経済情勢の悪化

景気悪化や法改正に伴う消費マインドの低下で売上が減少し、業績・財務に重大な影響を及ぼすおそれ。

対応策：

ターゲット層の需要を把握し、市場ニーズに応じたサービス・価格設定により長期運営を図る。

リスク 競合激化・市場変化

想定外の競合激化や市場変化で、店舗売上・新規出店計画が影響を受けるおそれ。

対応策：

店舗運営体制の合理化やスクラップ&ビルドで環境変化に迅速対応し、収益力を維持。

立地・自然リスク

リスク 自然災害（台風・豪雨）

瀬戸内海に面する立地のため、台風・大規模豪雨による施設の浸水のおそれ。

対応策：

設計段階から避難経路を確保し、従業員の避難訓練・避難誘導マニュアルを整備。

リスク 塩害

塩害で設備が想定より早く劣化し、大規模修繕が必要となるおそれ。

対応策：

耐塩性の高い素材や塩害対策塗装を採用し、劣化スピードを抑制。

リスク 高潮・波浪

沿岸立地のため、高潮や高波で屋外施設・設備が損傷するおそれ。

対応策：

護岸・排水設備を整備し、悪天時は屋外運営を一時停止する運用基準を設ける。

財務リスク

リスク 収益の下方乖離

実績が計画値を著しく下回り、資金繰りや事業継続に影響を及ぼすおそれ。

対応策：

①マーケティング戦略の見直しによる収益改善と、提供サービス見直しによるコスト改善の両面で対応。②それでも資金ショートが見込まれる場合は、関係者と協議の上、事業継続を前提とした大規模リストラクチャリングに着手。

事業リスク対応 ②

2.事業別リスク

モビリティ体験事業リスク

リスク　事故（衝突・運転ミス）

車両同士の衝突や搭乗者の運転ミスによる事故。

対応策：

搭乗前の注意事項説明と同意書署名を条件化。従業員向けマニュアルを整備。EVカートには事故防止用の速度制御機能を装備。加えて車両がすれ違わない運営とコース両脇の緩衝物で衝突・物損を防止。なお、事業主体者であるトムスは「シティサーキット東京ベイ」にてEVカート事業実績あり。

リスク　火災（バッテリー発火）

EVカートのバッテリー発火による火災。

対応策：

バッテリーの保管に細心の注意を払い、管理マニュアルを整備して発火・延焼を防止。

リスク　車両・設備の故障

体験車両や設備の故障により、営業や体験プログラムに支障が生じるおそれ。

対応策：

定期点検・予防保全を徹底し、予備車両・交換部品を確保することで営業への影響を最小化。

賃貸・展示・物販事業

リスク　空きテナント

借り手が見つからず空きテナントが発生するおそれ。

対応策：

複数業種へ戦略的にテナント誘致を継続して行い、長期契約と区画の可変運用で空テナント化を抑制。

リスク　賃料の減少

市場の平均坪単価下落で月額賃料が減少し、売上高が減少するおそれ。

対応策：

共用イベントや集客支援で入居メリットを高め、相場に依らない賃料水準を維持。

リスク　賃料の未納・不払い

家賃の未納・不払いが発生するおそれ。

対応策：

契約時の信用調査徹底と十分な敷金でリスクを低減。

飲食事業

リスク　衛生管理

食材提供に伴う食中毒等の発生。

対応策：

温度管理可能な保管場所を用意し、保管・廃棄マニュアルを整備して食中毒を防止。

XR事業

リスク　技術進化・先行投資

技術進化に伴う継続的な設備・ソフト・コンテンツ投資が事業継続の負担となるおそれ。

対応策：

既存ソフト・コンテンツ利用を継続しつつ、不足分はパートナー連携により外部アセットを活用し投資を抑制。

リスク　コンテンツ品質・多様性

コンテンツの陳腐化による来場者離れのおそれ。

対応策：

パビリオン形式で世界観を演出し、外部パートナーと組んでトレンドに合った多様なコンテンツを継続提供。

イベント事業

リスク　気候変動

台風・雨・雪などでイベント遂行に支障が出るおそれ。

対応策：

安全性を担保した開催判断を行い、屋内施設も活用して影響を軽減。

リスク　安全・セキュリティ

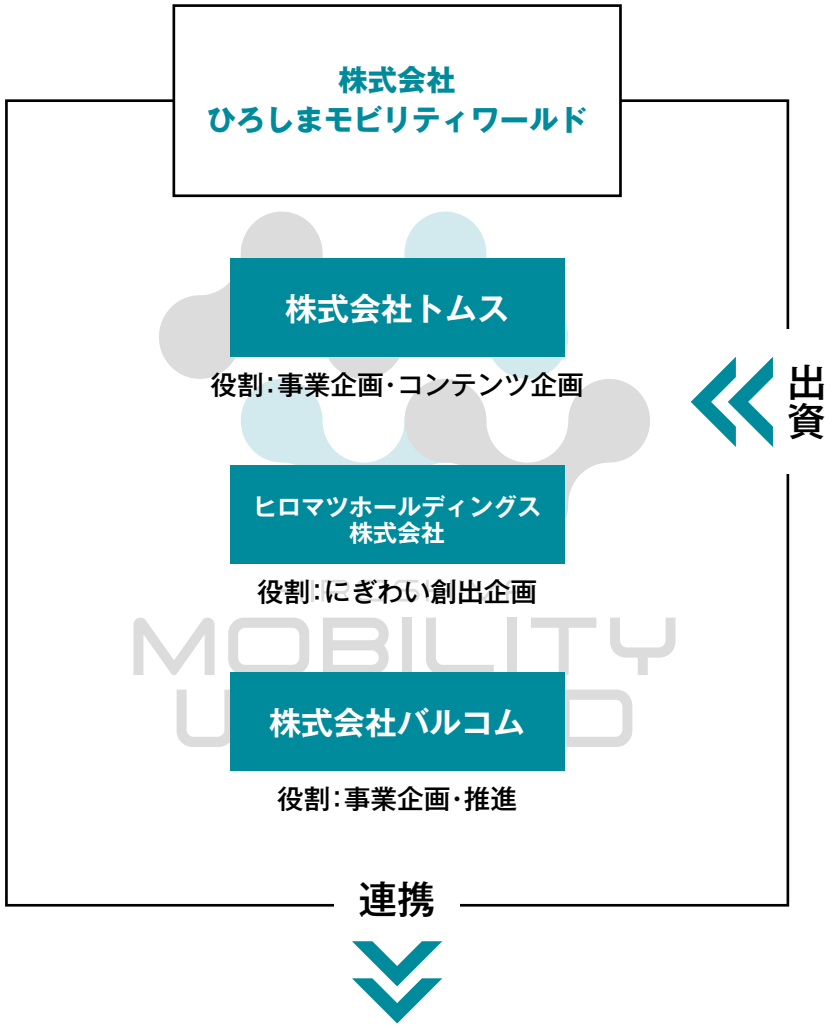
混乱・事故・暴力行為・テロ等のセキュリティ問題。

対応策：

地域警察との連携と警備体制の強化で安全性を担保。

事業実施体制

JV組織図



会社名：　株式会社ひろしまモビリティワールド

役員：

代表取締役	谷本 勲	（トムス代表取締役）
取締役	松田 哲也	（ヒロマツHD代表取締役）
取締役	山坂 哲郎	（バルコム代表取締役）
取締役	井坂 雄幸	
取締役	伊奈 和久	（トムス取締役）

共創パートナー（推進応援団）とは

ひろしまモビリティワールドの推進にあたり、地元の企業や各種団体と連携しながら事業ビジョンの実現を目指すため、共創パートナーを募集します。参画企業等の皆様には、構成員とともに事業検討や実証実験、共同研究などを推進いただきます。また、テーマごとに共創パートナーの皆様のご協力を仰ぎながらビジョンの具現化を図ってまいります。

施設管理運用計画

エリア	事業種類	運営方法	運営方針	提供サービス
Zone A	イベント・EV カート	直営	EVカートによる本格的な走行体験を中心に、初心者から上級者まで楽しめるプログラムやイベントを開催し、継続的な来場につながる施設を目指します。	走行体験 イベント実施
	XR 館	直営	最新のXR技術を活用した没入感の高い体験型エンターテインメントを提供し、子どもから大人まで楽しめる新しい施設価値を創出します。	体験 アトラクション
Zone B	バイカーズコミュニティ	テナント管理	主にバイクを愛する方々を中心に気軽に集い、交流を深められるコミュニティの場を提供するとともに、新たな出会いや情報発信が生まれる拠点を目指します。	車両販売 物品販売
	カーコミュニティ	テナント管理	さまざまな車両の展示・販売を通じて、最新のモビリティ技術やクルマが持つ走る楽しさ、所有する喜びを体感できるショールームとして運営し、新たなカーライフの価値を提案します。	展示・体験 ショールーム
	物販・コンビニ	直営 + 委託管理	来場者の利便性を高める商品や日用品を取り揃えるとともに、施設オリジナル商品や地域の魅力ある商品も販売し、快適な施設利用を支えます。	物販 コンビニ
Zone C	温浴・レストラン/ホテル	テナント管理	観光客だけでなく地域の方も利用可能な飲食、温浴、宿泊サービスを提供し、快適なくつろぎ空間を創出します。	温浴・レストラン ホテル
Zone PLUS	モビリティケア	テナント管理	純水洗車や手洗いブースなどを通じて、手軽な洗車からこだわりのケアまで楽しめる、新たなモビリティケアの価値を提案する施設を目指します。	純水洗車 手洗い洗車
	航空モビリティ	テナント管理	ヘリコプターや次世代航空モビリティによる飛行体験を提供するとともに、空の移動の魅力や将来性を体感できる施設を目指します。	飛行体験 観光
	携帯基地局	テナント管理	施設全体の通信インフラを支える設備として、来場者や各テナントへ安定した通信環境を提供し、安全で快適な施設運営を支えます。	携帯基地局

事業スケジュール

施設整備および開業の全体スケジュール

基盤整備・諸官庁協議の完了後、区画ごとに設計・建設を進め、2028年春より開業します。

※ 諸官庁協議・確認申請等を含む各施設の進捗概要。区画・テナント別

	2025年		2026年		2027年		
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
基盤整備	設計・計画			工事			開業 2028年春
イベント・EVカート	設計・計画				工事	開業準備	
XR館		設計・計画			工事	開業準備	
バイカーズコミュニティ			設計・計画		工事	開業準備	
カーコミュニティ			設計・計画		工事	開業準備	
温浴・レストラン/ホテル	設計・計画				工事	開業準備	
航空モビリティ			設計・計画			工事	
モビリティケア	設計・計画				工事	開業準備	
携帯基地局		設計・計画			工事		
協議会		適宜開催					